

【事業の内容】

- ①耐震工事を含む本館の改修内容、②本館で収蔵機能等に確保すべき面積、③美術館のサービス機能の内容等を調査(26年度)

本館改修の調査及び全体事業費(概算)の算出
(25年度予備調査では、本館約65億円⇒戦略会議時点と変わらず)
⇒再度戦略会議等での意思決定

【平成26年度予算の概要】

本館改修調査・新棟のあり方調査:20百万円
(本館:経年劣化・収蔵庫・防犯・防災対応など)
(新棟:利用者向けサービス施設)

本館屋根の改修(トップライト):17百万円
(良好な管理運営の継続)

※いずれも、新美術館計画と連携して事業を進めるとともに財源については調査結果を踏まえて改めて検討

【戦略会議での議論】

▶統合効果は期待薄

市立美術館と新美術館のコレクションを統合しても地域や時代を網羅するには不十分で、「通史」や「総合」などで表現される集積や相乗効果は期待できない

▶並存の優位性

東洋陶磁美術館を含めたこれら3館は館蔵品の成立史自体に意味があり、現在の位置でそれぞれのコレクションや特性を活かして並存することが望ましく、複数の拠点を有することが都市戦略上も有効

【コスト面での検討】

- 施設整備費は、既存の建物を活用する併存案の方が**約26億円**有利
- 一方、運営収支差は、一体的な維持管理が可能となる統合案の方が**約2千万円**有利
- 26億円の施設整備費を運営収支差で回収するためには、100年以上かかる計算となり**コスト面からも併存の方が合理的**

	中之島へ【統合】	市立美術館と新美術館の【併存】		
		合計	市立美術館	新美術館
施設整備費	223億円	197億円	本館：65億円 新棟：21億円	111億円
運営収支差	▲5.5億円	▲5.7億円	▲2.5億円	▲3.2億円
（収入）	4.6億円	5.1億円	1.3億円	3.8億円
（支出）	▲10.1億円	▲10.8億円	▲3.8億円	▲7億円